

「橋梁通信」に当社エンジニアの技術報告が掲載

2022年4月1日付紙面にて

「橋梁通信」は《橋梁の魅力をつたえる》をコンセプトとする橋梁通信社の専門誌です。特集コーナーの連載にNPO橋守支援センターの技術研鑽会(理事長=坂野昌弘・関西大学教授)が取材され、会員会社が橋梁構造物のメンテナンスに関する保有技術を紹介しています。

そこで内外構造株式会社のエンジニアはRC床版の点検方法について取り上げました。RC床版を補強するために鋼板接着工法により構造物を覆い目視点検できない場合の点検方法について報告しています。

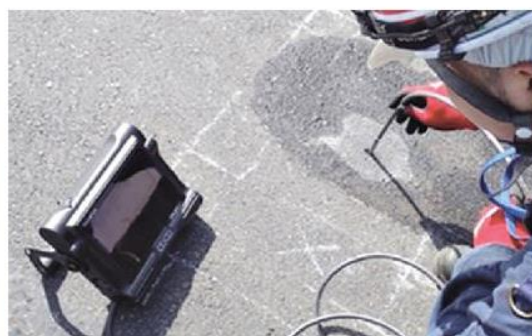
内外構造



出瀨さん

内外構造(大阪市中央区、安田扶律社長)調査事業部点検調査部の出瀨貴之さんは、鋼板接着工法で補強し、目視点検できないRC床版について、様々な検査手法を紹介した。

床版厚170mm、支間26・4m、1969年竣工の単純鋼合成桁橋を事例に、シングルアイ工法の破壊検査、コア採取



による物性値調査、衝撃弾性波法による不良部の範囲と位置測定を同時に行い、内部ひび割れ、砂利化、舗装はく離などを確認したと報告。

今後は物性値などの各種パラメータと内部ひび割れの相関を分析していくと語った。

(出典：橋梁通信 2022年4月1日 第97号)